

### 3. 2019年度事業報告詳細

#### (1) 大工道具及び建築関連資料の収集及び保管

##### ① 大工道具など実物資料の収集

###### a) 実物資料の収集

2019年1月～12月の収集点数 計 526点を館蔵資料として登録した。

##### ② 視聴覚資料の収集と保管

###### a) 「木組みの家」(26分)

伝統的な木組みの技術を用いて住宅を作り続ける大工・阿保昭則氏の仕事を記録する映像を撮影・編集し、長編映像として完成させた。

###### b) 「組子細工の技を継ぐ」(26分)

平成31年開催の開館35周年記念展での上映に向けて、建具の第一人者である横田栄一氏の組子細工の仕事を記録する映像を撮影・編集し、完成させた。

###### c) 「水車大工 ―水力エネルギーをデザインする―」(22分)

平成31年開催の企画展「水車大工 ―水力エネルギーをデザインする―」用の映像として、香川県高松市の高原水車復元工事の映像を制作した。素材となる映像は水車の所有者によって撮影されており、それを編集した。

###### d) ビデオライブラリーの英語字幕化

ビデオライブラリーの映像資料の内、必要度と優先度の高いものを選別し、英語ナレーション版、または字幕版を製作する、平成30年度より開始した計画の継続実施分。本年度は「定規」、「墨壺と墨差し」など、計8点を英語字幕化した。

###### e) 継手仕口コンピューターグラフィック (CG)

平成31年開館35周年記念展「木組 分解してみました」用の展示解説として円覚寺組物のCG(1点)、建築の継手・仕口CG(21点)、環境映像(9点)を製作した。

2019/1～2019/12 収集件数計 568点

##### ③ 分類整理・保管

###### a) 収蔵庫の維持管理

収蔵庫維持管理に伴う各種業務を実施した。害虫燻蒸、温湿度管理、資料の油拭き等の定常管理の他に、資料保存用防錆紙、作業用ヒーターを購入した。

###### b) 資料データベースの整備

資料の保全ならびに管理作業の効率化を目的に、大工道具・図書・文献・映像・論文等の資料のデジタル化・データベース化を継続的に推進している。本年度は通常通り、新規収集資料の登録を行い、10月から11月にかけて写真撮影、画像補正・挿入等の作業を実施した。

#### (2) 大工道具及び建築関連資料等の展示及び公開

##### ① 常設展示

###### a) 常設展示の保守管理

常設展示における器具破損対応等の保守管理、道具の油拭きならびに借用品の貸借契

約更新を実施した。また常設展リニューアル後 5 年目となるため耐用年限に達した情報端末用ディスプレイや PC 等機材（約 20 台）をすべて交換、傷汚れが目立つ展示品・展示台の交換も併せて実施した。

b) 関連印刷物の発行

来館者用のリーフレット、企画展、ワークショップ等のイベントチラシ、企画展図録の印刷発行と増版を含む適正在庫量を確保した。また本年度は特別に、平成 31 年 2 月に刊行した『a+u 2019 年 2 月号 手わざと建築 一竹中工務店と竹中大工道具館』（日英併記）をミュージアムショップにて主に外国人向けに販売を開始した。

② 企画展の準備と実施

a) 企画展「洋菓子の道具たち 型で味わうお菓子の歴史」

エーデルワイスミュージアムが長年にわたって収集したヨーロッパ各地の製菓器具コレクションの中から、型を中心とした貴重な資料を展示し、あわせて装飾に凝った華やかな菓子容器や現代のパティシエがつくり出す最高峰の工芸菓子「ピエスモンテ」を紹介した。

会 場：当館多目的ホール

会 期：平成 30 年 12 月 15 日（土）～1 月 27 日（日）

入場者：5,293 名

共 催：エーデルワイス

後 援：兵庫県洋菓子協会

（関連イベント）

ワークショップ「お菓子の家を作ろう」

日 時：平成 30 年 12 月 15 日（土）①9：30～12：00、②14：00～16：00

会 場：休憩室

講 師：立川順一（エーデルワイス）

参加者：①10 名、②11 名

追加開催：1 月 13 日（日）

ワークショップ「木型を彫って、スペキュロスを作ろう」

日 時：1 月 12 日（土）9：30～16：00

会 場：午前）木工室、午後）休憩室

講 師：立川順一（エーデルワイス）、北村智則（当館技能員）

参加者：12 名

実演「チョコレートテンパリングから型取りまで」

日 時：1 月 19 日（土）10：00～／14：00～

会 場：木工室

出 演：野田朋宏（エーデルワイス）

参加者：38 名／104 名

ワークショップ「ケーキ用プレートとフォークを作ろう」

日 時：1 月 20 日（日）9：30～16：00

会 場：午前）木工室、午後）休憩室

講 師：後藤雅宏（木工作家・後藤雅宏工房）

参加者：10 名

追加開催：1 月 31（木）

実演「ベルランゴ飴とあめ細工製作」

日 時：1月26日（土）10：00～／14：00～

会 場：木工室

出 演：橋口将輝（エーデルワイス）

参加者：45名／134名

b) 企画展「SOMA 日本の森と素木の家具」

日本の針葉樹の価値を再び見つめ直そうと、SOMA（杣）というブランドを立ち上げた岐阜県美濃加茂市の木工作家、川合優氏の活動を紹介する展覧会。日常の器から家具まで、端正な佇まいながらも木の持つ力強さを感じられる作品を展示した。

会 場：当館多目的ホール

会 期：2月9日（土）～3月17日（日）

入場者：6,512名

（関連イベント）

ワークショップ「ヒノキとい草のスツールを作る」（全2回）

日 時：2月23日（土）・24日（日）10:00～16:00

会 場：木工室

講 師：川合優（木工家・SOMA ディレクター）

参加者：5名

c) 企画展「水車大工－水力エネルギーをデザインする－」

水車大工の野瀬秀拓氏の技術を中心に、水のエネルギーを効率よく動力に変換するための、水車や歯車の作り方を展示した。関連イベントとして野瀬氏によるセミナーを行った。

会 場：当館多目的ホール

会 期：3月30日（土）～5月12日（日）

入場者：7,989名

（関連イベント）

「技と心」セミナー[92]「水車の構造と作り方」

日 時：4月20日（土）13：30～15:00（13：00開場）

会 場：神戸芸術センター会議室 504号室

講 師：野瀬秀拓（水車大工・野瀬建設代表）

参加者：126名

d) 企画展「第17回伝統工芸木竹展」

昭和29年から開催されている日本伝統工芸展の木竹工部門で隔年で開かれる「伝統工芸木竹展」の神戸展を当館にて開催した。我が国の優れた伝統工芸のなかでも、木竹工芸は豊富な良材に恵まれている日本独自の工芸として技術的・芸術的に優れた作品を遺している。本展ではこの伝統を継承しつつも、今日の生活に即した創意ある作品を展示した。

会 場：当館多目的ホール

会 期：5月18日（土）～6月9日（日）

入場者：4,804名

後 援：文化庁、兵庫県教育委員会、朝日新聞社、神戸新聞社、NHK神戸放送局

（関連イベント）

ワークショップ「寄木細工のブローチ」

日 時：5月26日（日）10:00～14:00

会 場：木工室

講 師：三浦信一（日本工芸会正会員）

参加者：10名

ワークショップ「筏底の菓子置き」

日 時：6月2日（日）①9：30～12：30、②13：30～16：00

会 場：木工室

講 師：上野 孝志（日本工芸会正会員）

参加者：①8名、②9名

重要無形文化財保持者（人間国宝）によるギャラリートーク

日 時：①2019年5月18日（土）11：00～／14：00～

②2019年6月1日（土）14：00～

会 場：当館多目的ホール

講 師：①須田賢司（木工藝家・日本工芸会木竹工部会長・重要無形文化財「木工芸」保持者）

②村山明（木工藝家・重要無形文化財「木工芸」保持者）

e) 企画展「座る・くらべる 一脚展 2019」

兵庫県で活動する家具作家が過去一年以内に製作した新作の椅子を展示する企画展を開催した。今年は地元六甲山の間伐材を使用したスツールやアクセサリ、カトラリー等の木製品を提案。あわせて下記イベントを開催した。

会 場：当館多目的ホール

会 期：9月3日（火）～9月16日（月）

入場者：1,302名

後 援：神戸市 kobe もりの木プロジェクト

（関連イベント）

ワークショップ「六甲山の木でカリンバを作ろう！」

日 時：9月7日（土）①9：30～12：00、②13：30～16：00

会 場：木工室

講 師：一脚展出展メンバー

参加者：①15名、②12名

ギャラリートーク

日 時：9月16日（月）14：00～

講 師：一脚展出展メンバー

参加者：44名

f) 企画展「木工藝 清雅を標に一人間国宝 須田賢司の仕事ー」東京展

人間国宝須田賢司氏(木工藝家、人間国宝)の作品を通じて日本伝統の木工藝術を紹介した。小箆筒、箱、家具など多彩なジャンルの作品を中心に、銘木や道具、指物仕口、仕上げ技法などの制作の舞台裏も紹介し、精緻な木工作品を生み出す背景も展示し、好評を得た。

会 場：東京 ギャラリーエークウッド

会 期：8月2日(金)～9月20日(金)

入場者：4000名

後 援：群馬県甘楽町、公益社団法人日本工芸会

（関連イベント）

ギャラリートーク

日 時：①8月2日（金）14：00～15：00 ②8月23日（金）14：00～15：00

講 師：須田賢司（木工藝家・人間国宝）

会 場：ギャラリーエークウッド AB ホール

参加者：①43名 ②64名

講演会「木工の歴史と作品－指物師から工芸作家へ－」

日 時：8月23日（金）18:30～20:00

講 師：小泉和子（家具道具室内史学会長）

須田賢司（木工藝家・人間国宝）

参加者：111名

g) 開館35周年記念巡回展「木組 分解してみました」神戸展

開館35周年の特別企画として、日本各地を巡回する大型企画展を開催した。今回は日本並びに世界の「木組」に着目し、大工を始めとする職人とコラボレーションして、木組を象徴するオブジェを制作し、木と道具の関係を交えながら、その魅力を紹介した。本展は神戸展を皮切りに、翌年にかけて名古屋、東京、広島、札幌の各会場を巡回する。

会 場：当館多目的ホール

会 期：10月12日（土）～12月15日（日）

入場者：12,071名

（関連イベント）

ワークショップ「子どもが乗れちゃう！錦帯橋1/5模型の組立て」

日 時：10月12日（土）①10:30～12:00 ②13:30～15:00

会 場：当館特設会場

講 師：岩国市錦帯橋課 吉田雅男

※台風19号の影響のため、中止となる。

ワークショップ「組子コースターづくり」

日 時：12月6日（金）、7日（土）

①10:30～12:00（12/7のみ）②13:30～15:00（両日）

会 場：当館地下2F木工室

講 師：栄建具工芸 横田栄一

参加者：56名

h) 海外特別展「THE THINKING HAND（日本の大工技術と道具）」ニューヨーク展

4月頃の開催を計画していたが、ニューヨークボタニカルガーデン側の予算的な都合で延期となった（実施時期未定）。

i) 海外特別展「哲匠之手 THE THINKING HAND 日中建築交流 二千年の歩み」中国展

近年、米国やフィンランドにて開催してきた日本の大工技術と道具を紹介する展覧会を中国で展開した。主催は現地の寧波市古建築博物館で当館は資料の輸送と職員・職人の派遣等を負担した。

会場：保国寺古建築博物館（浙江省寧波市）

会期：9月12日（木）～11月11日（日）

（関連イベント）

シンポジウム

「道具・職人・建築史研究」

日 時：9月12日（金）10:00～12:00

会 場：保国寺古建築博物館会議室

講 師：鳴海祥博（文化財建造物保存修理主任技術者）

郭黛恒（清華大学）ほか

参加者：25名

ワークショップ「日本の大工道具の切れ味」  
日 時：①9月13日（金）10:00～12:00  
②11月11日（月）10:00～12:00  
会 場：保国寺古建築博物館特別会場  
講 師：阿保昭則（大工棟梁、耕木杜代表）  
参加者：30名

j) 展覧会「和の美」

日本の伝統工芸を支えてきた作家たちを紹介する展覧会を開催した。  
会 場：当館多目的ホール  
会 期：6月29日（土）～7月28日（日）  
共 催：WANOB I 和の美  
入場者：5,612名

（関連イベント）

ワークショップ「茶杓削り体験」  
日 時：7月13日（土）①10:00～12:00、②13:30～15:30  
会 場：木工室

講 師：谷村丹後（茶筌師、和北堂）  
参加者：48名

ワークショップ「紙漉き体験」  
日 時：7月21日（日）①10:00～12:00、②13:30～16:00  
会 場：木工室  
講 師：奥野誠（和歌山県龍神村 紙漉き工房主宰）  
参加者：26名

k) 企画展共通備品の整備

企画展開催に必要な備品（映像機器、ディスプレイ）を購入した。

③ 企画展の中期的準備

a) 開館35周年記念巡回展「木組 分解してみました」名古屋展他

本年度10月から開催の展覧会を2020年に名古屋（1月11日～4月5日）・東京（5月下旬～7月中旬）・広島（7月下旬～9月上旬）・札幌（9月中旬～10月下旬）の会場へ巡回すべく、準備・調整を進めている。

b) 企画展「大工さん 近世の職人文化とその伝統」

神戸市立博物館特別展「建築と社会の年代記―竹中工務店400年の歩み―」連動企画として同時期（2020年1月11日～3月1日）に開催すべく準備を進めている。江戸時代から明治時代にかけての大工の暮らしと仕事を紹介する。神戸芸術工科大学と共同で落語アニメーション等を制作中。

c) 企画展「アルヴァ・アアルト（仮）」

ギャラリー・エー・クワッド連携。2020年に開催すべく、開催団体と調整を進めている。

### (3) 大工道具及び建築関連資料等に関する調査研究及び研究誌の発行

#### ① 海外の建築技術と道具

##### a) 東アジア（中国、韓国）

日本と深い関わりをもつ中国・韓国の木造建築と道具に関する調査研究を実施している。本年は韓国の現役大工の道具調査およびインタビューを行った。

##### b) 東南アジア

昨年度企画展「南の島の家づくり—東南アジア島嶼部の建築と生活」展に引き続き、東南アジア大陸部編を開催するための基礎調査を行う。今年度は情報収集を適宜実施した。

##### c) ヨーロッパ

ヨーロッパの大工道具と建築技術に関する継続的研究として、フランスの規矩術に関する調査を実施している。本年は木組展の展示品制作に鑑みて、制作工程のビデオを制作した。

#### ② 日本の建築技術と道具

##### a) 大工技術書

館蔵の大工技術書のうち、近年収集された新規収蔵卷子本の内容読解を継続的に進め、学会投稿へとつなげる。今年度は情報収集を適宜実施した。

##### b) 建築部材の加工技術（部材刃痕）

日本の現存最古の民家である神戸市の箱木家、ならびに姫路市の古井家の刃痕調査を継続中。次年度報告書（神戸市・姫路市刊行）への分担執筆を予定している。

##### c) 職人への聞き取り調査

名工と讃えられる大工ならびに鍛冶を対象に、既往研究調査ならびに本人・関係者への聞き取り調査を、中期的課題とし実施している。本年度は企画展と連動して、阿保昭則氏、海老崎叡次氏への聞き取りを実施した。

##### d) 近世民家の住まい方

近世の民家における住まい方の歴史あるいは構法・加工技術の歴史について調査研究を進める。今年度は資料調査など各種準備を行った。

#### ③ 博物館学：教育普及活動

博物館における学校との連携事業を実施する。一昨年に製作した視覚障がい者向けのハンズオンキット（文化庁の助成事業の一環）を活用したプログラムを実施した。

#### ④ 「技と心」研究会開催

館外学識者ならびに館職員を対象に、木造建築ならびに道具に関する専門家を招聘して研究会を開催している。本年度は下記の通り実施した。

「文化財建造物保存修理工事に見る木組の技」

日 時：8月2日（金）13：30～15：00

会 場：当館 1F ホール

講 師：鳴海祥博氏（元・公益財団法人和歌山県文化財保存センター）

参加者：32名

⑤ 出版活動（研究成果の公開）

a) 研究紀要 No. 30 の発行および No. 31 の準備

調査研究成果の公開を目的として、研究紀要 No. 30 を 3 月下旬に発行し、当館関係者、大学、専門研究者等に配布した（800 部作成）。年後半には No. 31 発行に向けて企画ならびに原稿執筆を進めた。

⑥ 調査研究一般

a) 情報収集活動

道具と建築に関する情報収集を行う。現地調査、学会参加、博物館視察、出版物収集などを随時実施した。

b) 研究者ネットワークの形成

本年度は情報収集のみを実施した。

#### （４）教育、学術及び文化に関する普及及び支援活動

① 諸施設への協力

a) 諸施設への協力

博物館・研究機関・職人団体等への情報提供および資料貸出、博物館実習生の受け入れ、館外での受託講演、研究協力などを行った。また本年度は 9 月 1～3 日に開催された ICOM 京都大会に協力し、ブース出展を行った。

ア) 実物資料貸出（15 件）

イ) 画像貸出（7 件）

ウ) 原稿執筆（1 件）

エ) 講師派遣（12 件）

オ) 博物館実習受入

9 大学 9 名の博物館実習生を受け入れた。

b) 「伝統建築工匠の技」の保存・活用及び発展を推進する会の活動支援

宮大工や左官が継承する「伝統建築工匠（こうしょう）の技」をユネスコの無形文化遺産に登録するための保存・活用及び発展を推進する会を活動を支援した。

② 講演会とセミナーの開催

a) 「技と心」講演会

館外の学識者や著名人物を講師として迎え、一般向けに大工道具や建築技術に関する講演会を実施する。本年度は「木組」展と連動した講師を招聘した。

「木組とはなにか」

日 時：11 月 23 日（土・祝）14：00～16：00（13：30 開場）

会 場：ラッセホール 2 階大会場

司 会：谷 直樹（大阪くらしの今昔館館長）

講 師：阿保昭則（大工棟梁／耕木杜代表）

須田賢司（木工藝家／人間国宝）

横田栄一（建具師／栄建具工芸代表）

参加者：193 名



b) 「技と心」セミナー

一般客を対象に当館ならびに近隣会場にて実施した。(6回)

回次	会場	期日	内容	講師
第91回	竹中大工道具館庭・布引の滝ハイキングコース	3/2	「竹中大工道具館、周辺の森と庭ツアー」(12+10名参加)	三浦豊(森の案内人)、川合優(木作家・SOMAデザイナー)
第92回	神戸芸術センター会議室	4/20	水車の構造と作り方(126名参加)	野瀬秀拓(水車大工・野瀬建設代表)
第93回	神戸芸術センター会議室	5/19	「木竹工芸の楽しみ」(59名参加)	須田賢司(木工芸家)
第94回	神戸芸術センター会議室	7/14	「日本の庭園づくり」(91名参加)	重森貝崙(映像作家)
第95回	1F ホール	9/22	「厳島神社の社殿を護る」(84名参加)	三船慎悟(厳島神社大工棟梁)
第96回	木工室	10/19	「宮大工が語る木組の話」(午前20名、午後21名参加)	神田定秀(播磨社寺工務店代表取締役)

c) サマーイベント、ウィンターイベント

開館記念日(7/1)の週の土曜日(7/6)をファンデーとし無料入館日とした他、夏季限定の特別イベント「木育キャラバン 木のおもちゃたちが大集合!」を開催した。冬季も同様に、クリスマスに合わせた特別イベント「クリスマスの夜を絢どる弦楽の調べ」を開催した。

③ 教育普及プログラムの実施

a) 館内プログラム

来館者に道具の使用を通して理解を深めてもらうため、「ちょこっと木工」(ワークショップ、水曜、土日祝日)、大工による鉋削り体験(月1回)、大工道具にチャレンジ(月1回)、春休み・夏休み子ども体験教室、木作家によるワークショップなどを定期的実施した。

ア) 木工イベント

プログラム名	実施日/実施日数	講師	参加人数
大工道具にチャレンジ!	合計24日	北村 智則、ボランティア、委託大工	3358名
大工による鉋削り体験	合計7日	北村 智則	597名
ちょこっと木工	合計99日	北村 智則、ボランティア、委託大工	3584名
刃物研ぎ教室	合計6日	北村 智則	29名
包丁研ぎ教室	合計4日	北村 智則	60名
春休み子ども体験教室	3/26, 27, 28, 29	ボランティア	133名
ワークショップ「ハンペルマンを作ろう」	3/30, 31	よねざわともみ	14名
大人のための木工教室(入門編)	4/3, 4, 5	北村 智則	5名
鍛冶屋体験「切出し小刀を作ろう」	4/24, 25, 26	三木工業協同組合	10名
ゴールデンウィークスペシャル「実演研る!挽く!」	5/3, 4, 5, 6	中島 徹也	761名
大人のための木工教室(初級板材編)	6/12, 13, 14, 19, 20, 21	北村 智則	5名
ポートピアホテル夏休み子ども教室	8/9	北村 智則、ボランティア	親子9組

夏休み子ども体験教室	7/23, 24, 25, 26, 30 8/1, 2, 7, 15, 20, 21, 23, 27 合計13日	北村 智則、ボランティア、 委託大工	親子 256 組
ワークショップ「オーバル キャリアづくり」	9/19, 20	宇納 正幸	18 名
大人のための木工教室（初 級角材編）	11/13, 14, 15, 20, 21, 22	北村 智則	5 名
ワークショップ「木のかけ ら達を愛でるリースづく り」	11/30, 12/1	戸田 直美	親子 25 組

9,159 名

イ) 学校向けプログラム

小学校 8 校の団体見学を受入れ、学生向けプログラム「千年の釘にいどむ」を実施した。

b) 木工室の管理・運営

安全かつ円滑なイベント実施のために、木工室を管理する。また、イベント実施に必要な大工道具、木工部品を拡充した。

c) アウトリーチ活動

小学校をはじめとする教育機関での出張授業や教員研修、他機関での体験教室などのアウトリーチ活動を実施した。

ア) 小学校での出張授業として大工道具の実演・体験を 3 件実施した。

イ) 館外イベントとして児童館等での子供向け大工道具体験 2 件、教員を対象とした刃物研ぎの実技指導を 1 件実施した。

④ ボランティア活動の管理・運営

大工道具に関心ある希望者をボランティアスタッフとして受け入れ、(1)館蔵品の手入れや整理等の補助、(2)常設展示の展示解説、(3)館内プログラムの運営およびその補助、(4)アウトリーチ活動での補助等に携わっていただいている。これらの活動の管理運営ならびに、スキルアップのための研修会・勉強会を実施した。

内容	実施日	講師
解説ボランティア勉強会（常設展示）	不定期	各コーナー担当者（崔、植村ほか）
企画展勉強会	3/30, 5/18, 6/28	企画展担当者
ボランティア勉強会	5/9	猪鼻 一帆
ボランティア技術研修会	4/11, 12, 17, 5/26, 6/4	北村 智則
ボランティア英語解説勉強会 (TCTG)	毎月 1 回水曜午前	解説ボランティア有志
ボランティア見学会（大塚国際美術館他）	10/29	赤尾 建蔵ほか

## (5) 竹中大工道具館の管理・運営（管理業務）

### ① 管理・運営一般

#### a) 財務会計処理業務一般

本館活動のための資金運用を含めた財務会計処理業務を適正且つ着実に実施した。

#### b) 入館受付、団体受付、展示説明他

団体の見学依頼の予約受付、展示説明対応者の設定や変更時のフォローを着実にこなうと共に、個人の来館者、外国人来館者に対しても解説ボランティアや音声ガイド活用等により満足される対応を行った。人気の「ちょこっと木工」については受付業務をスムーズに行うために参加申込シートやメニュー表の改善を図り変更時には速やかに反映を行った。

### ② 広報活動

#### a) 広報一般

各種広報媒体へ企画展やイベント活動等を含めた情報提供を積極的に展開し、広報後の礼状送付などアフターケアを含め継続して報道してもらえるよう努めた。また必要に応じ地方版への広告掲載、新聞折り込みを実施した。

#### b) 広報印刷物の発行と送付

当館の最新情報およびイベント案内を掲載した広報誌「竹中大工道具館 NEWS」（年2回発行、作成部数6月：8,000部、12月：8,000部）と「イベントチラシ」（年2回発行、作成部数6月：12,000部、12月：12,000部）を発行し、また、サマーイベントやウィンターイベントの各チラシ（6月：30,000部、10月：20,000部）も発行した。関連施設、来館者などに配布ならびに発送した。

#### c) ウェブサイト・メールマガジンの維持・管理

広報活動の一環として、一般向けに IT を利用した、ウェブサイトの定期的更新および企画用特設サイトの構築、メールマガジンの定期発行（隔月年4回、広報誌 NEWS ベースに再編集）を実施した。また外国人対応のため、英語ウェブサイトを充実させるとともに館内に無料 Wi-Fi を設置した。

### ③ ミュージアムショップの運営

来場者サービスの一環として「木」「道具」をコンセプトにミュージアムショップを運営している。企画展にちなんだ商品、当館のイメージ向上につながる商品を選定し販売した。

### ④ 茶室の維持・管理

敷地内の茶室を適切に維持管理し、春2日間の日程で応募による呈茶体験並びに春秋4日間特別公開を実施した。

### ⑤ 休憩室の維持・管理

休憩室を適切に維持管理し、小学生の校外学習での昼食場所、乳幼児を連れた家族の休憩場所、おとなが庭園を見ながらほっとひと息つける心地よい休憩場所を提供した。

### ⑥ 館の情報インフラの強化・管理

運営に必要な作業環境および情報インフラの更なる充実とセキュリティ強化を図るため、PC機器の更新、委託更新を行った。また館内のネットワーク環境向上のため Wi-Fi を導入しユーザーの利便性の向上を図った。

- ⑦ 理事会・評議員会、役員見学会の開催  
2～3月に決算の定時理事会及び定時評議員会、10月に次年度の事業計画・予算の定時理事会及び役員見学会(役員全員)を開催した。
- ⑧ 財団法人事業報告会への参画  
3月に(公財)竹中育英会、(公財)ギャラリーエークウッドと共に出席し、本館の事業の進捗などについて報告、及び運営上の情報交換さらには企画展の共同開催についても情報交換を行った。
- ⑨ 運営管理の改善と効率化  
館の運営に係る管理費(固定経費)をより精度よく把握するとともに、事業費(変動費)の予実管理の充実を図り効率よい運営推進に努めた。